

民間投資・官民連携による 国営武蔵丘陵森林公園の里山管理に関する資料

1. 公園の概要
2. 本公園の里山と管理
3. 本公園の課題と目指すべき方向性
4. 民間投資・官民連携による里山管理

1. 公園の概要

1. 公園の概要 | (1) 公園の基本理念と基本方針

(1) 公園の基本理念と基本方針

基本理念

明治の近代国家への方向を確立した偉業をたたえる記念事業の一環として、自然を失いつつある都市の住民が緑を通じて人間性を回復する場を確保するため、国は明治百年を記念するにふさわしいものとして、首都近郊の武蔵丘陵に国営公園を設置して、ながく後世に伝えることとする。

基本方針

- ① 国民各層が四季を通じて利用できる公園とする。
- ② 森林公園としてふさわしい環境を保持しながら、屋外レクリエーションの施設を考慮する。
- ③ 現存の地形及び植生を十分考慮するとともに、池沼は原則として改造しない。
- ④ 現存する文化財を原則として保存する。
- ⑤ 来園者の自動車は園内を通さない形態とする。
- ⑥ 公園施設については、都市公園法に準拠する。

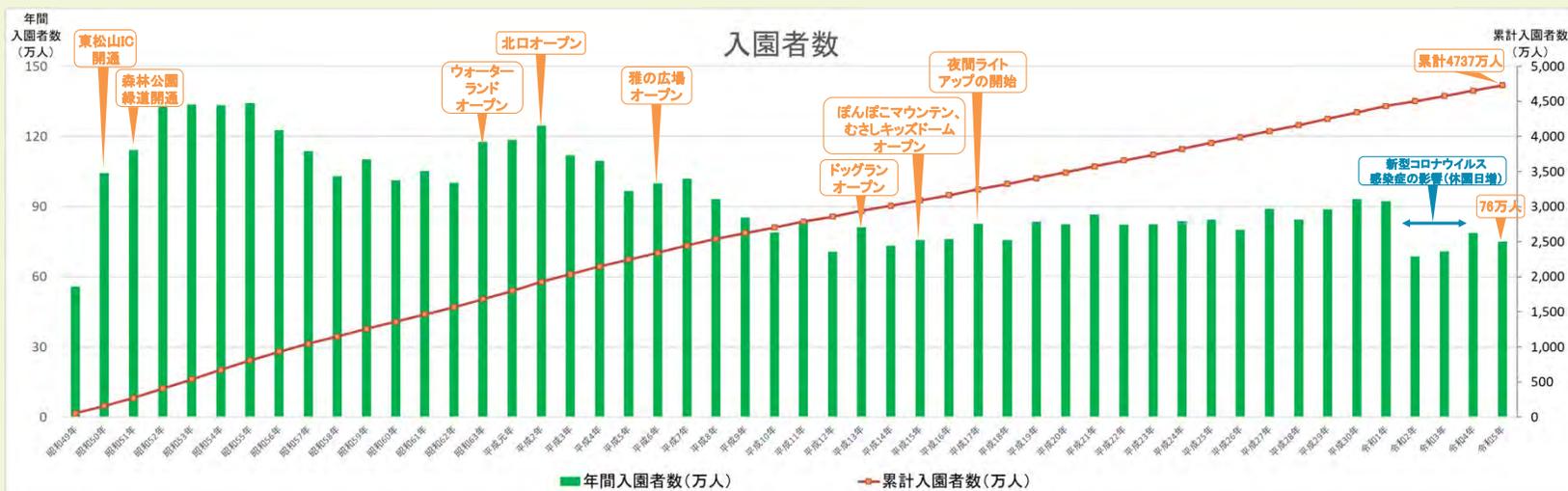
公園概要

区分：口号国営公園
 所在地：埼玉県比企郡滑川町、熊谷市
 全体面積：304ha
 (東西約1km, 南北約3.5km)
 整備着手年度：昭和42年度
 供用開始年度：昭和49年度

※口号国営公園：国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保全及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地

■ 入園者数の推移

- 近年（コロナ禍以前）は紅葉見ナイト（夜間開園）等の効果により年間80～90万人に微増傾向。
- 来園者数のピーク時（昭和52年～平成初期で120～130万人）と比べて、春季や秋季の来園者数が減少傾向。



1. 公園の概要 | (2) 公園の概要

(2) 公園の概要

南地区 (里山のエリア)

【ゾーンの考え方】

武蔵野の里山を残すゾーン
主として動的レクリエーションを考慮

【整備・運営コンセプト】

<草花の鑑賞と里山管理、健康づくり>

梅、サクラ、野草等の里山の草花を鑑賞する空間
間伐等に里山環境を管理する空間
自然を楽しみながらスポーツなど健康づくりをする空間

【主要施設】

花木園、野草コース、南口広場・運動広場、クロスカントリーコース等

花木園



野草コース



運動広場



中央地区 (緑と遊びのエリア)

【ゾーンの考え方】

都市の緑や自然・里山の学びのゾーン
記念施設を中心として、その他の緑や遊びに関する施設を配置

【整備・運営コンセプト】

<緑の学習、子供の遊び>

緑について深く学ぶことができる空間
遊具やイベントで賑わう空間

【主要施設】

都市緑化植物園、中央広場、溪流広場、わんぱく広場、水遊び場、西口広場

むさしキッズドーム



水遊び場



冒険コース



溪流広場



都市緑化植物園



紅黄葉樹見本園



北地区 (樹林のエリア)

【ゾーンの考え方】

里山の自然遷移に沿った管理ゾーン
主として静的レクリエーションを考慮

【整備・運営コンセプト】

<草花の鑑賞と里山・自然探勝>

草花を鑑賞する空間
南地区の里山環境と対照的な自然遷移により管理する空間

【主要施設】

ドッグラン、北展望所、自然探勝路等

北展望所



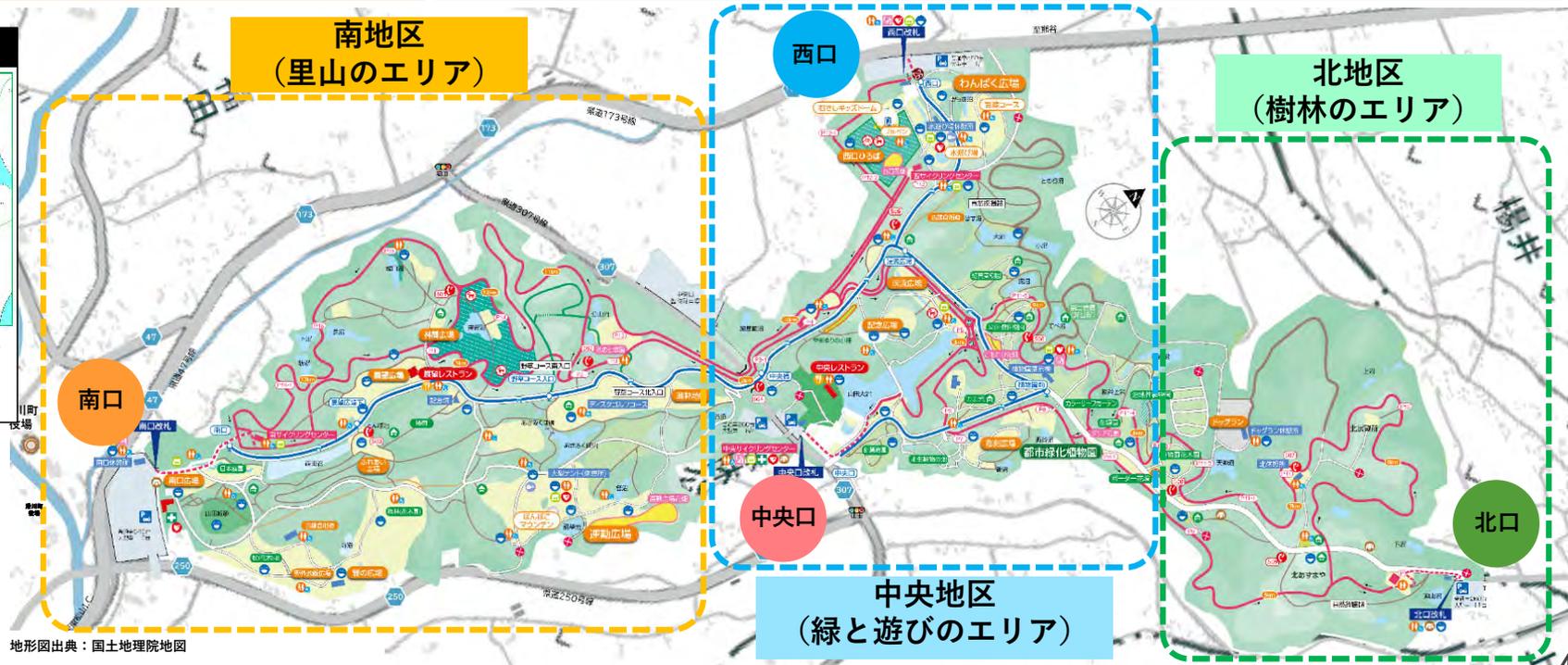
ドッグラン



アクセス



東武東上線の森林公園駅 (池袋駅から急行で59分) で下車し、路線バスで10分程度 (南口)



地形図出典：国土地理院地図

1. 公園の概要 | (3) 環境学習、各種イベントの実施状況

(3) 環境学習、各種イベントの実施状況

■ 環境学習・都市緑化植物園イベントの概要

分類	イベント・プログラム名	内容	実施概要	実績 (R1)
展示	企画展示	都市緑化植物園展示棟にて四季折々の植物に関する企画展示を実施	月1回(各1ヵ月間)程度	計10回
ガイドツアー	植物園じっくりガイド(定例ガイド)	都市緑化及び緑と花の文化に関する植物園スタッフによるガイドツアー	月2回	計24回 合計589人
	専門家ガイド	植物専門家を講師に迎えたガイドツアー	月1回程度	計11回 合計282人
	今が見頃ガイド	企画展に関するガイドや体験講座を取り入れたガイド	不定期	計2回 合計80人
	セルフガイド	園内の巨木100選、やまゆり・カエデ園紅葉の見頃時期に合わせたセルフガイド用の解説・誘導看板の設置	-	-
体験イベント	里山で自然体験	小学生の親子を対象としたクラフト、自然観察会	月1回程度	計10回 合計225人
	里山マイスター講座	一般来園者(大人)を対象とした植物園講義	月3回程度	計36回 合計375人
	その他の体験プログラム	様々な世代を対象とした体験プログラム	不定期	計7回 合計58人
環境学習	環境学習プログラム	学校等の団体受入れによる環境学習プログラムの実施	適宜	計60件 合計4,219人
	依頼ガイド	ガイドツアーの受入れによるガイドの実施	適宜	計15件 合計340人
	博物館実習・インターンシップ	博物館学芸員養成課程の学生の受入れ・インターンシップ	夏休み期間中	計5名
	その他実習等の受入れ	中学生・大学生の社会体験・インターンシップ	適宜	計13名
緑化相談	緑化相談	都市緑化植物園に寄せられた緑化に関する相談	適宜	計118件

■ その他代表的なイベントの概要

分類	イベント・プログラム名	内容	実施概要	実績 (R1)
ライトアップ・イルミネーション	森のハロウィンナイト	ハロウィンをテーマとしたライトアップイベント	10月夜間	18,007人
	紅葉見ナイト	園内の紅葉をテーマとしたライトアップイベント。期間中は草月流インスタレーションや地域の学校等の制作したライトアップや音楽イベントも実施	11月夜間	31,814人
	スターライトイルミネーション	クリスマスをテーマとしたライトアップイベント	12月夜間	18,358人
地域との合同イベント	沼まつり	滑川町などと協力し、森林公園内のため池で魚とりなどの伝統的行事を実施、地域の沼の文化価値を知るイベント	年1回10月	88人
	日本スリーデーマーチ	東松山市を中心として実施される日本最大のウォーキングイベントで、森林公園もコース内に含まれる。	年1回11月初旬	-
体験・アクティビティ	快適ウォーキング	季節の花や公園内の名所をテーマに実施するウォーキングイベント	月1回程度	計12回 合計217人
	森林ヨガ教室	公園内でヨガを楽しむイベント	月1回程度	計3回 合計79人
	愛犬との上手な暮らし方教室	ドッグランで実施する犬との日常の接し方に関する教室	年1~3回程度	53組
その他	ムシ虫ミュージアム	夏休み期間中に西口エリアで開催する親子連れ向けの昆虫展示・ふれあいイベント	年1回(夏休み)	-
	摘み取り体験	運動広場花畑、西口ひろば花畑などの季節の大規模花修景の終盤、利用者が参加できる摘み取り体験イベント	年2~3回程度(年により変動)	計6回 合計1,974人
	アウトドアパーク	運動広場を会場としてツリーイングやSUPなどの体験、アウトドアツールの展示・販売、地域の来店によるマルシェなどがあるアウトドアイベント	年1回	11,865人



企画展示
(草木で染める展)



専門家ガイド
(秋のきのこ観察)



環境学習
(ネイチャーハント)



里山で自然体験
(田植え)



紅葉見ナイト



スターライトイルミネーション



沼まつり



森林ヨガ教室



快適ウォーキング



ムシ虫ミュージアム



摘み取り体験



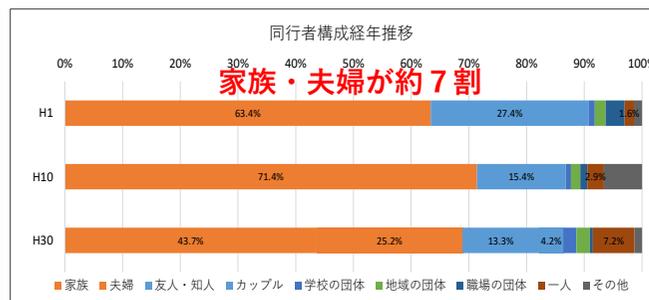
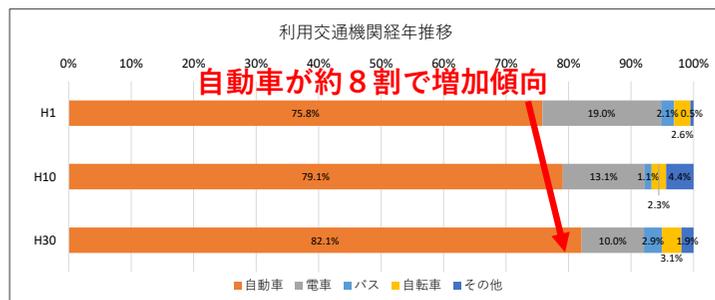
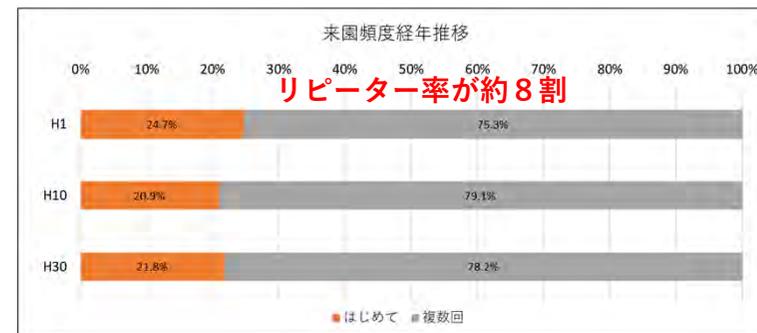
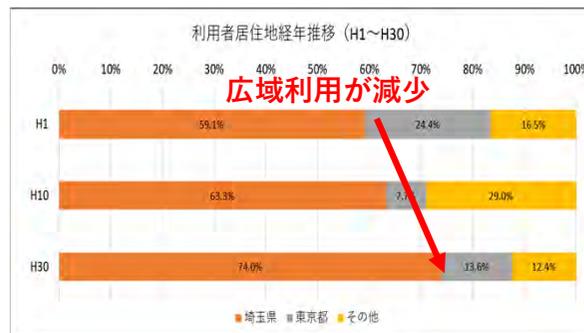
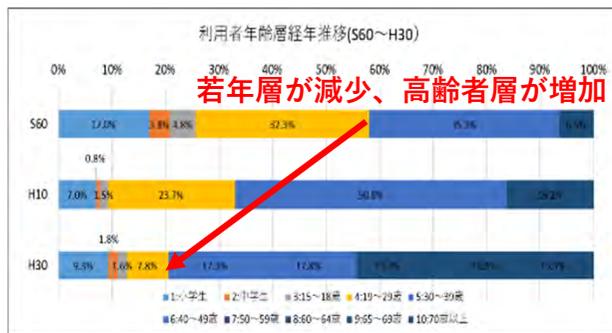
アウトドアパーク

1. 公園の概要 | (4) 公園利用の状況

(4) 公園利用の状況

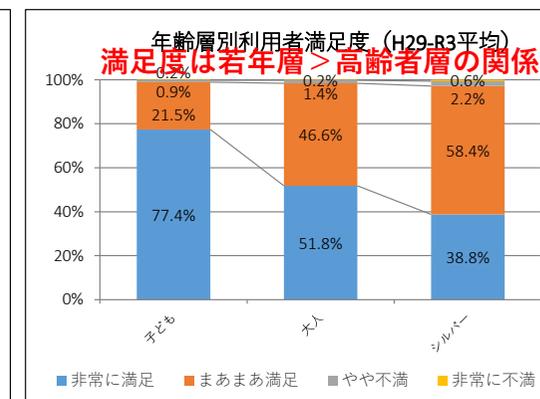
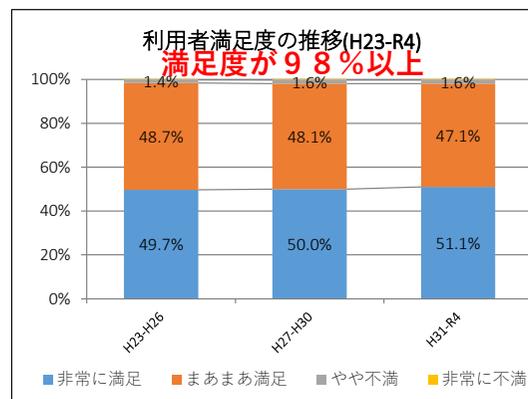
1) 来園者の属性

- 年齢層：若年層の割合が減少、高齢者層の割合が増加傾向
- 居住地：埼玉県が増加傾向で、東京都やその他の割合が減少傾向（広域利用の減少）
- 来園頻度：リピーター率が約8割を占めている
- 同行者構成：家族・夫婦の割合が約7割を占めている
- 利用交通機関：自動車での来園が約8割を占め、増加傾向



2) 公園利用の満足度

- 満足度の経年変化：満足度（非常に満足+まあまあ満足）の割合は98%以上を占める
- 年齢層別の満足度：若年層ほど満足度が高く、高齢者層で低い傾向にある

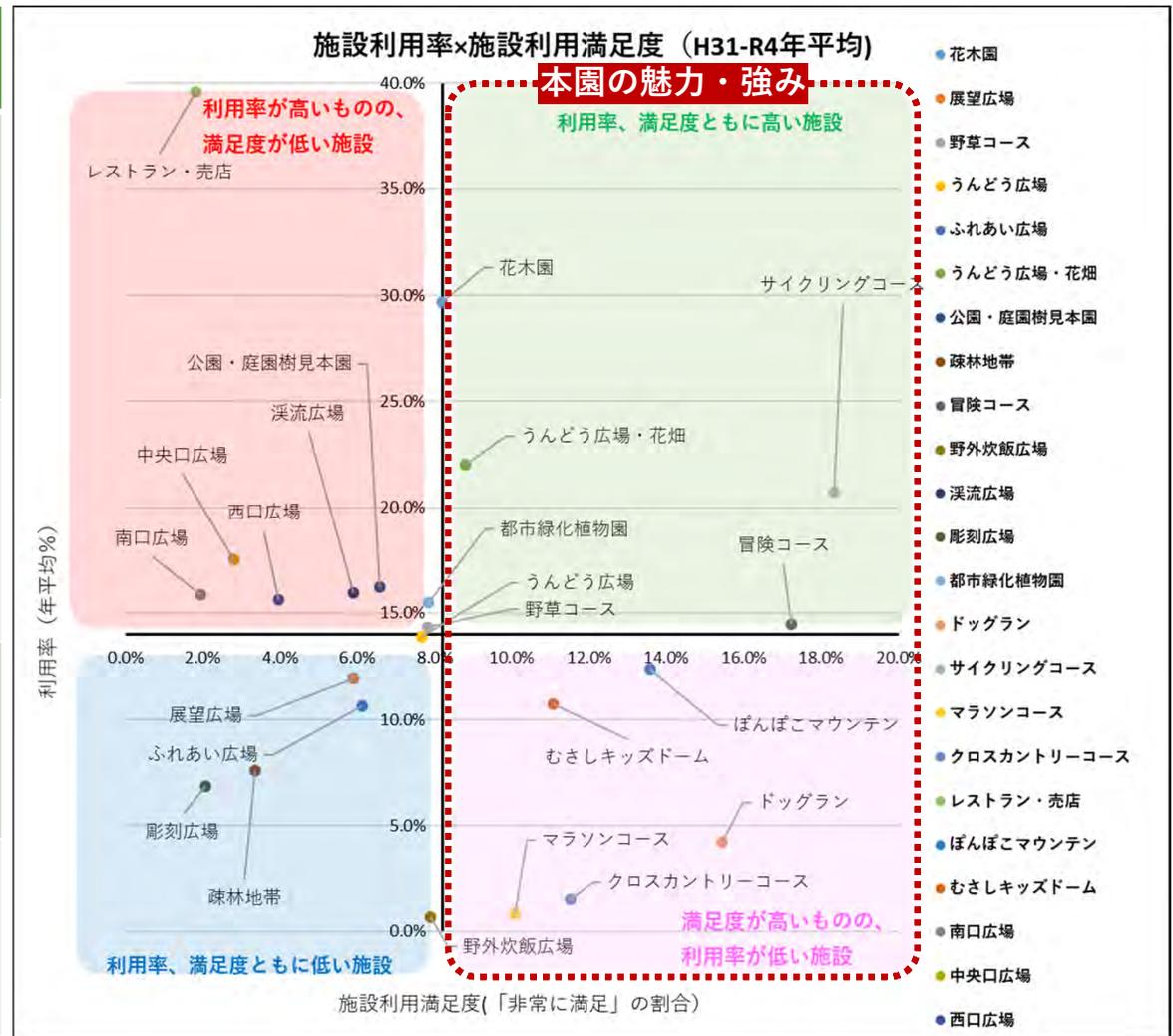


1. 公園の概要 | (4) 公園利用の状況

3) 本園の魅力・強み (施設利用率と施設満足度)

- 公園利用者アンケート結果 (H31-R4) より、施設利用率と施設利用満足度の関係性を整理した。

施設利用率と満足度の関係	主な公園施設
利用率が高いものの、満足度が低い施設 ⇒来園者ニーズに対応しきれていない施設	レストラン・売店が突出、次いで南口広場、中央口広場、西口広場、溪流広場等
満足度が高いものの、利用率が低い施設 ⇒本園の魅力を活かしきれていない施設	マラソンコース、クロスカントリーコースが顕著
利用率、満足度ともに低い施設 ⇒本園の弱み	彫刻広場、疎林地帯、ふれあい広場、展望広場、野外炊飯広場※
利用率、満足度ともに高い施設 ⇒本園の強み	サイクリングコース、冒険コース、うんどろ広場・花畑



※野外炊飯広場は、現在炊飯場としては運営していないため、広場・桜名所として認識されていると想定される

2. 本公園の里山と管理

2. 本公園の里山と管理 | (1) 本公園の里山環境について

(1) 本公園の里山環境について

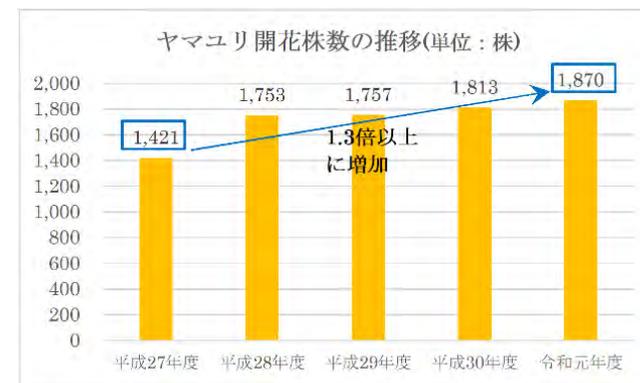
- 本公園は、アカマツ林、コナラ林、湿地、ため池等から構成される里山の景観を守り、多様な自然環境を保全することになり、生物多様性の確保に貢献している。
- 本公園には、園内全体で約1万株のヤマユリが自生している他、現在、森林公園で確認されている植物は、755種（重要種82種）にのぼり、キンラン、シュンランなどの様々な山野草が確認されている。これらの山野草の生育環境を維持するために、間伐や下草刈り、病害虫の予防・防除を行い、NPOと協働で里山の保全に努めている。
- また、本公園には、オオタカ等を始めとする希少猛禽類、アナグマ、カヤネズミ、トウキョウサンショウウオ、オオムラサキなど、樹林地、草地、水辺などの多様な環境で生息している動物が確認されている。



アカマツ林



ヤマユリの保全



アナグマ



カヤネズミの巣



(2) 植物管理計画

- 本公園では、本公園の里山（アカマツ林、コナラ林等）の里山緑地、庭園林等の植栽緑地それぞれについて、植物管理の基本的な考え方、目標とする植生像、維持管理内容等に関する「植物管理計画（案）」（H27.3、R3.3修正版）を策定している。

1) 植物管理の基本方針

森林・里山としての健全な自然環境の保全と生物多様性の確保

武蔵丘陵森林公園の基盤として継承してきた森林・里山の多様な動植物を保全するために、雑木林、松林、湿地林、植林、竹林、草地、芝生地、湿地、池沼、流れ等、多様な自然環境を健全に維持する。

①森林・里山としての健全な自然環境の保全

②希少種や個体数が少ない脆弱な種の保全

都市公園として、人と自然・歴史文化資源とのふれあい空間の維持

誰もが快適に、四季を通じて安全・快適に利用できるように、園路や利用空間を適切に管理し、心地よさや癒しを感じられる植物景観を形成・維持する。また、園内に点在する歴史文化を適切に保存・継承するための管理を行う。

①四季を通じた魅力ある樹林景観の形成・維持

②植物管理による利用空間の利便性・快適性・安全性の確保

③歴史・文化資源の保存・継承

自然情報の収集・発信

本公園でみられる自然資源の特性や、動植物の保全・園芸種コレクションの保存等の植物管理技術等の情報や知見を植物管理を通じて収集・蓄積し、それらを植物管理へフィードバックして良質な植物空間を形成するとともに、利用者へ自然情報・知見の発信や技術の普及を行う。

①自然情報や管理技術の蓄積と維持管理へのフィードバック

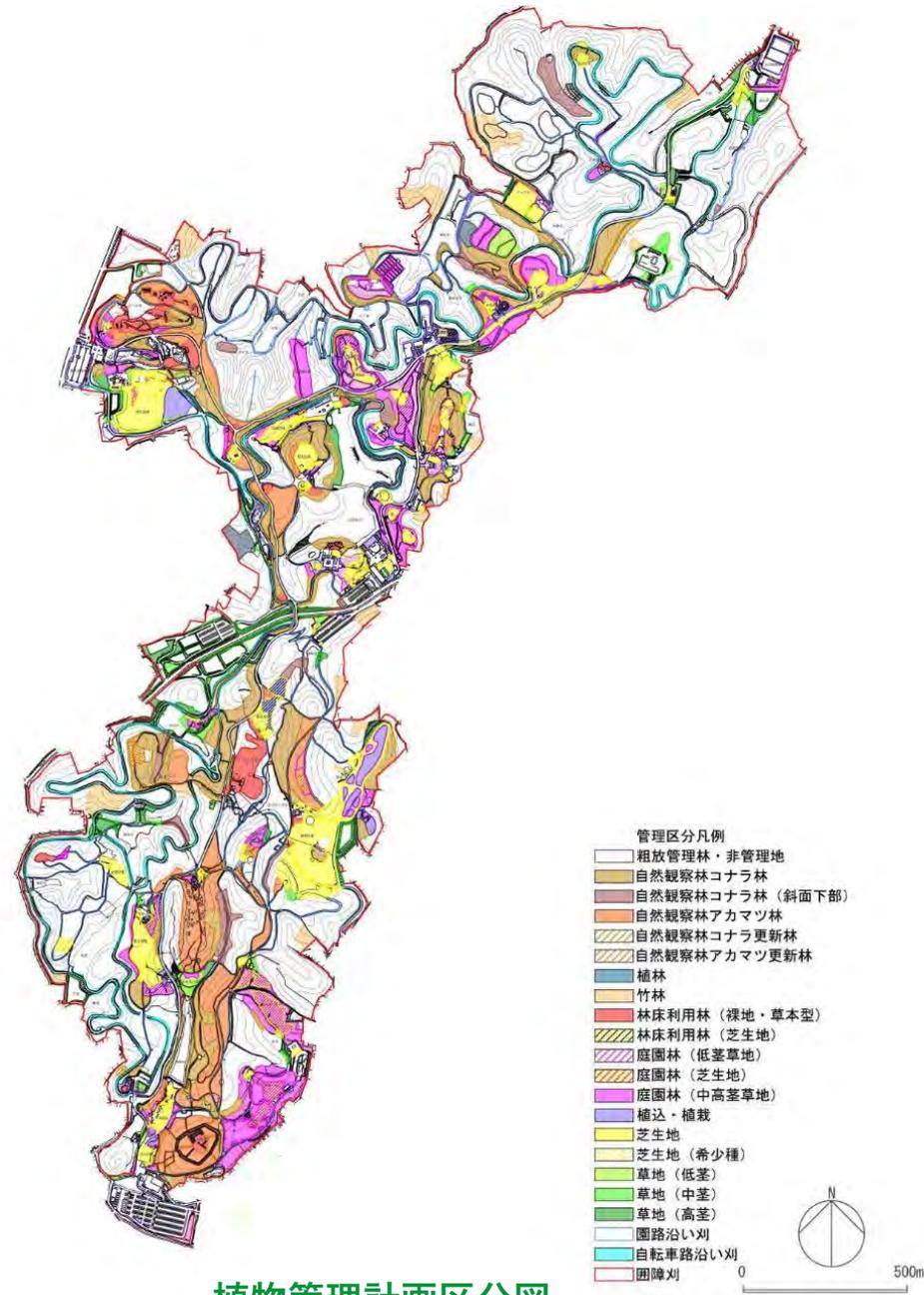
②蓄積した自然情報や管理技術の利用者への発信

2. 本公園の里山と管理 | (2) 植物管理計画

2) 植生管理区分図



関連植生図



植物管理計画区分図

2. 本公園の里山と管理 | (2) 植物管理計画

3) 本公園の里山の目標イメージ

アカマツ林

明るいアカマツ林：腐植が少ない林床では瘠せ地を好む野草が生育し、ヤマツツジ等の松林らしい花木が群生して開花する。

開放的な若齢林：開放的な若齢林環境を形成することにより、樹林環境に動的で多様な変化をもたらす。

コナラ林

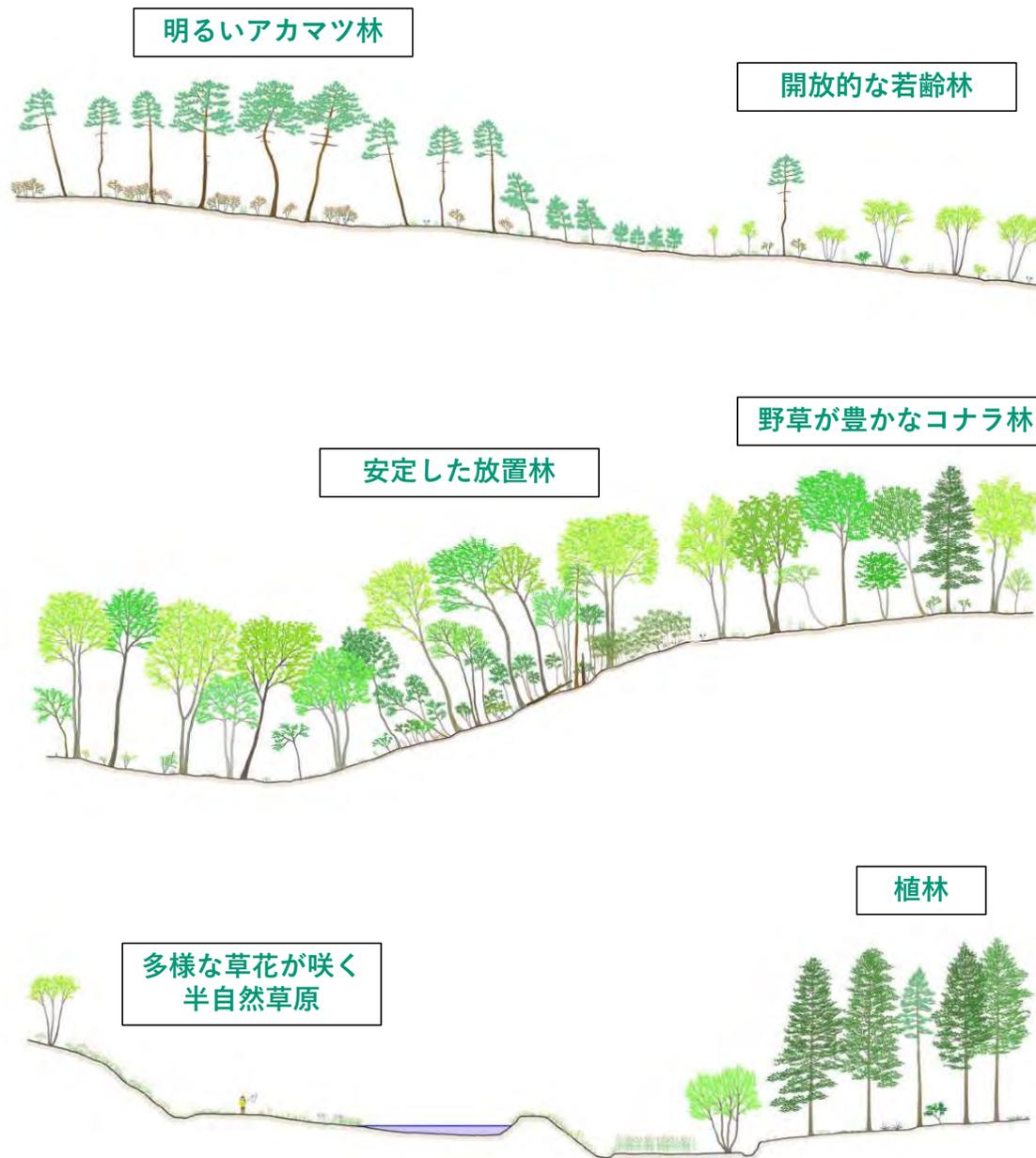
安定した放置林：大径木林の育成や、管理を嫌う種群の生息地となるような環境を確保。

野草が豊かなコナラ林：明るい場所ではヤマユリ等が開花し、谷あいでは、森林性の野草が生育する多様な林床植生。

草地・植林

多様な草花が咲く半自然草原：里地らしい草原性の野草が群生して開花する懐かしく魅力的な草原。

植林：適正に管理された植林地。



本公園の里山の望ましい目標イメージ

2. 本公園の里山と管理 | (2) 植物管理計画

4) アカマツ林の目標像と管理内容の例

- 本公園の里山管理（植物管理）では、**公園管理の財的・人的制限から計画に沿った植物管理が十分に実施できていない状況にある。**

エ. 自然観察林 アカマツ林				
①利用イメージ	・散策、動植物、キノコ等の観察鑑賞			
②現況	・低茎ササが密生するコナラ林			
③管理目標	・低茎ササが密生しない、野草が豊かな明るいアカマツ林を維持する			
④目標植生像：ササが少なく、野草や花木が豊かな明るいアカマツ林				
⑤目標植生構成種	階層	密度 (株/100 m ²)	樹高 (m)	主要構成種
	高木層	5~10	15~20	アカマツ
	亜高木層	0~1	6~8	ネジキ
	低木層	0~10	1~2	ヤマツツジ
	草本層	—	0.2~0.6	ヒカゲスゲ、ヒメヤブラン、シュンラン、ノガリヤス、アブラススキ、ススキ、オカトラノオ、ヒヨドリバナ、ツリガネニンジン、シラヤマギク、ヤマユリ
	ササ群落	30%以下	0.4以下	
重要種	キンラン、ギンラン、オオヤマトンボ、シュンラン、ウメガサソウ、イチヤクソウ、ウシクサ、カリマタガヤ、オミナエシ、センブリ、リンドウ、リュウノウギク			

エ. 自然観察林 アカマツ林																																																																						
⑥維持管理内容	<p>■下草刈り・除草</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野草や花木は刈り残す。野草周辺は状況に応じて手刈とする。 ・野草周辺のササはパッチ状に地際で刈って、ササの植生率を30%以下に抑制する。 ・ススキは、カヤネズミが地面や地下で活動する冬期（1月～2月）に30～40cmの高さで刈る。一部は冬期も刈り残す。 ・蔓やササが過剰繁茂した箇所は、夏季にも刈払いを行う。 ・ヤマユリの鑑賞地では開花前（7月）に絡んだ蔓を除去する。 ・過剰繁茂した低木の伐採や整枝剪定を行う。 ・下草が草本類だけであっても、アカマツ林では下草を刈払って、落葉が少ない林床を維持し、菌根の活性化を図る。 <p>■間伐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカマツを圧迫する広葉樹は伐採する。 ・野草や花木を直接庇蔭している上層木は間伐する。 ・支障のある枯損木、劣勢木を伐採する。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈屑は全て搬出する。 ・野草が多い箇所では落葉が堆積しないようにする。 ・猛禽類営巣木周辺では営巣に影響の少ない8～12月に作業を行う。 ・松枯れ予防のための樹幹注水を概ね年毎に実施する。 																																																																					
⑦除去対象種	・アズマネザサ、過剰繁茂した蔓類、外来種																																																																					
⑧管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ササや蔓等、除去対象種の再生状況に注意する。 ・野草や花木等の開花状況に注目して、被圧木の間伐を検討する。 																																																																					
⑨管理作業とスケジュール	月別年間スケジュール ●:実施適期 ○:状況に応じて																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ササ刈払</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回/年以上</td> </tr> <tr> <td>低木類の剪定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>必要に応じて</td> </tr> <tr> <td>間伐・枯損木処理</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>必要に応じて</td> </tr> <tr> <td>落葉枯草除去</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>過剰堆積箇所</td> </tr> </tbody> </table>		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	ササ刈払			○	○	○	●	●	○	○				1回/年以上	低木類の剪定								○	○	○			必要に応じて	間伐・枯損木処理									○	○	○		必要に応じて	落葉枯草除去									●	●		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考																																																									
ササ刈払			○	○	○	●	●	○	○				1回/年以上																																																									
低木類の剪定								○	○	○			必要に応じて																																																									
間伐・枯損木処理									○	○	○		必要に応じて																																																									
落葉枯草除去									●	●			過剰堆積箇所																																																									

(3) 公園ボランティア活動の概要

- 本公園では、平成6年に山野草ボランティアが最初に発足し、令和6年4月現在、里山サポータークラブとして94名のボランティアの皆様と一緒に、公園の管理や運営に取り組んでいる。

ボランティア活動名	概要
里山サポータークラブ	各ボランティアグループの共通の活動として、体験イベント（里山で自然体験等）や事前研修などを実施しています。
山野草ボランティア	本公園の南地区には、里山で見られる山野草をより身近にご覧いただけるよう整備された約1kmの野草コースがあり、このコースの保全作業や山野草の育成のための活動を実施しています。
雑木林ボランティア	本公園の樹林地の大部分は、里山として人が手を入れることで維持されてきた雑木林であり、その雑木林の維持管理や育成のための活動を実施しています。
植物園ボランティア	本公園の植物の魅力や植物のある暮らしの楽しみ方を伝えるため、花壇班、クラフト班、ガイド・サポート班、コンシェルジュ班に分かれて活動を実施しています。
環境学習ボランティア	環境学習に参加する学校団体や地域団体の方々に、「木の実クラフトをはじめとする工作の指導」、「自然観察ガイド」などの環境学習や、より充実したプログラムにしていけるための研修会も実施しています。



山野草ボランティア



雑木林ボランティア



植物園ボランティア



環境学習ボランティア

3. 本公園の課題と目指すべき方向性

(1) 背景と課題

【本公園が直面する課題】

1) 公園施設の老朽化、陳腐化への対応

- 電気・上下水道・浄化設備等のインフラや休憩所、建物、大型遊具、その他工作物等の老朽化による機能不全
- トイレのユニバーサルデザインの未対応、都市緑化植物園（見本園や緑化技術の相談等）の陳腐化

2) ストックの再編、利便性の改善

- 広い公園敷地に配置される利用が少ない公園施設の存在
- 園内ネットワークが脆弱な移動手段

3) 里山環境の保全への対応

- 里山環境の管理不足（本来の里山管理不足、病害虫対応や特定外来生物防除の負担増、ボランティアを含めた人材不足）
- Well-Beingやネイチャーポジティブの実現に向け重要な役割を担う緑地として本公園の里山のあり方を見直す契機

※次ページ以降に本公園の課題を詳述する。

3. 本公園の課題と目指すべき方向性 | (1) 背景と課題

【参考：課題の状況】

3) 里山環境の保全への対応

●里山環境の変化 手入れ不足



林床に日光が差すコナラ林



日陰でも育つ樹木が優占するコナラ林

●里山環境の変化、病虫害の拡大



●アライグマ（特定外来生物）によるトウキョウサンショウウオ（希少生物）への影響



監視カメラに撮影された2頭のアライグマ



捕食されたトウキョウサンショウウオ成体

3. 本公園の課題と目指すべき方向性 | (2) 目指すべき方向性

(2) 目指すべき方向性

本公園の里山環境の魅力とポテンシャルを最大限に活かし、公園の価値、魅力値の向上・再生、管理運営の効率化を目指す。

1) 公園の価値向上（里山・緑地の価値、公園自体の地域資源としての価値）

- 里山・緑地の価値の再整理、ネイチャーポジティブへの貢献
- 都市緑化植物園の新たな意義、機能の再構築
- 公園施設の魅力・利便性の向上のための集約・再編

2) 管理運営の効率化

- 公園施設の集約による財政支出の抑制
- 産学官民の多様な主体との連携による里山を保全・管理する持続可能な仕組み、体制の導入

本サウンディング型市場調査で対話を実施したい事項

4. 民間投資・官民連携による里山管理

(1) サウンディング調査実施の背景

【ネイチャーポジティブ（自然再興）の世界的潮流】

- 我が国では、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択（令和4年12月）され、里地里山・緑地の保全の促進（自然共生サイト（OECM）の認定）等による「30by30」の目標を掲げている。
- さらに、「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」（生物多様性増進活動促進法）が成立し、増進活動実施計画等の認定制度の創設された。

【民間による自然環境保全の機運の高まり】

- TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の流れにより、民間の企業経営における生物多様性の確保や自然資本の重要性の高まり、これら企業等の取組を支援するため、令和6年に都市緑地法を一部改正し、「民間事業者等による緑地確保の取組に係る認定制度」の創設など加速的に進んでいる。

国際的な動向	生物多様性	都市緑地	グリーンインフラ
2022年「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の採択 2023年「TNFD最終提言v1.0」の発行	2023年「自然共生サイト（OECM）認定制度」開始 2024年「生物多様性増進活動促進法」の公布（増進活動実施計画等の認定制度の創設）	2024年「都市緑地法の一部を改正する法律」の公布（民間事業者等による緑地確保の取組に係る認定制度の創設）	2023年「グリーンインフラ推進戦略2023」策定（都市緑地等のグリーンインフラに係る評価制度の構築、TNFDとの連携等） （グリーンインフラの市場における経済価値に関する研究会）

4. 民間投資・官民連携による里山管理 | (1) サウンディング調査実施の背景

目指す方向性

将来像の実現に向けた管理運営・再整備の基本方針（案）

国営武蔵丘陵森林公園では、国営公園第1号として、本公園の里山環境の魅力とポテンシャルを最大限に活かし、公園の価値、魅力値の向上・再生、管理運営の効率化を目指す。

(1) 公園の価値、魅力の向上・再生

- 里山型都市公園の価値の見える化、ネイチャーポジティブへの貢献
- 都市緑化植物園の新たな意義、機能の再構築
- 公園施設の魅力・利便性向上のための再生・集約・再編

(2) 管理運営の効率化

- 公園施設の統廃合による財政支出の抑制
- 産学官民の多様な主体との連携による里山を保全・管理する持続可能な仕組み、体制の導入

民間の必要性

民間事業者参入の必要性

目指す方向性の実現のためには、従来の管理運営体制では**財政面・人材面での制約**があり、公園の価値や魅力の向上にあたっては、**民間事業者の資金・人材・創意工夫等を活用していくことが必要**となっている。

特に国営武蔵丘陵森林公園では、里山の管理に民間事業者が参入することで、目指す方向性を実現することを期待する。民間事業者の里山管理への参入は、以下の2つのパターンを想定する。

① 里山環境の魅力向上のためのP-PFI等民間事業の実施

② 武蔵の里山の恵みを活用する事業者による保全事業の誘致

サウンディング調査

サウンディング調査の必要性

本公園の里山環境の価値や魅力向上のための官民連携事業の可能性、具体的なアイデア等の意見や提案を民間事業者に求めることを目的として、**サウンディング調査を実施することとする。**

ネイチャーポジティブ等への関心	参入意向	具体的なアイデア	事業実施に向けた課題・条件
<ul style="list-style-type: none"> • ネイチャーポジティブや生物多様性への関心や取組状況 • 国営武蔵森林公園の里山環境の価値や魅力は何か 	<ul style="list-style-type: none"> • 国営武蔵丘陵森林公園における事業に参入する意欲があるか • どのような関わり方に興味があるか 	<ul style="list-style-type: none"> • 里山環境の魅力向上や維持管理のアイデアは何か • どのような民間施設が導入できるか 	<ul style="list-style-type: none"> • 国営武蔵丘陵森林公園における事業実施に向けて必要な条件は何か • 課題となる点や配慮事項は何か

期待される効果

民間事業者の事業内容と期待される効果

参入パターン	民間事業者の事業内容	国へのメリット	民間事業者へのメリット	公園への効果
パターン①	P-PFI等による公園施設の再整備、新しい公園施設・機能の導入	公園施設の更新、財政支出の抑制	事業実施による収益	公園の価値、魅力の向上
	Park-PFI等による里山の管理（特定公園施設）	財政支出の抑制、里山管理の財源・人材確保	ESG経営やTNFD開示への対応	里山環境の再生
パターン②	里山の保全事業	ネイチャーポジティブへの貢献、里山管理の財源・人材確保	ESG経営やTNFD開示への対応	里山環境の再生

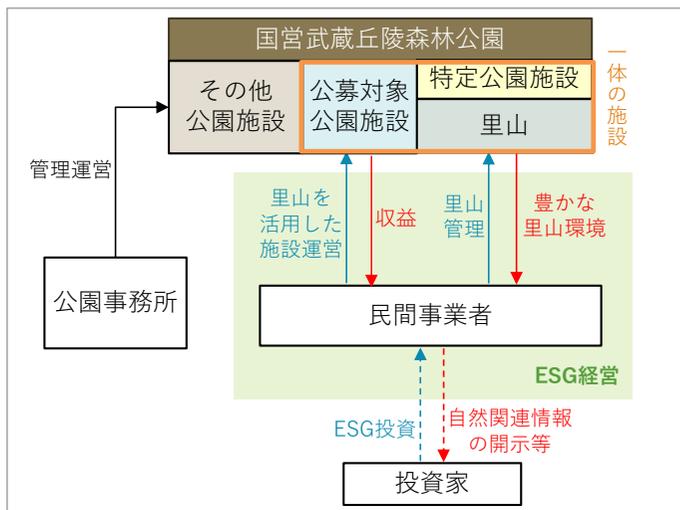
4. 民間投資・官民連携による里山管理 | (2) 想定する事業スキーム

(2) 想定する事業スキーム

- 民間投資や官民連携手法による里山管理は、生物多様性、都市緑化及びグリーンインフラに関して、これらを推進するための法改正や諸制度の創設を踏まえて、里山管理が民間事業者の事業の一部として行われることでESG経営等につながることを期待する。
- 本公園の里山管理の民間事業者の参入は、以下に示す2つのパターンを想定する。

パターン①：里山環境の魅力向上のためのP-PFI等民間事業の実施

P-PFI等により民間施設を国営武蔵丘陵森林公園に整備し、施設の一部として民間事業者が里山管理を行う。民間事業者にとって、豊かな里山環境を確保・維持することが民間施設の質を高め、運営収益を上げることができる。また、里山環境を活用した事業実施がESG投資の対象となることや、TNFDの開示義務への対応を可能とするメリットがある。



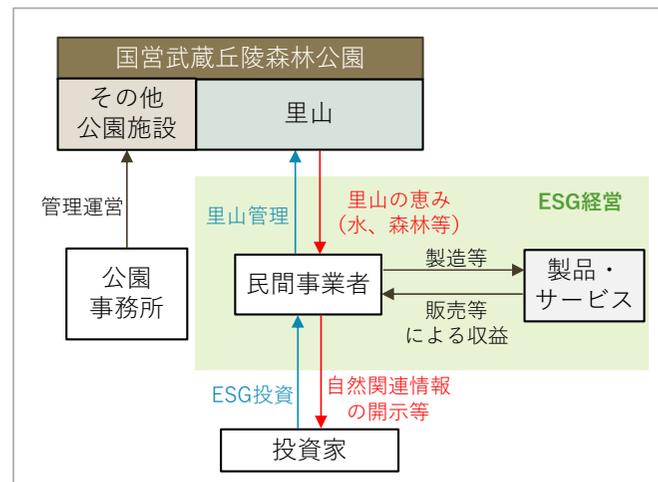
横浜動物の森公園 トレイルアドベンチャイメー
(出典：横浜市)



inn the park Numazu
(出典：inn the park ホームページ)

パターン②：武蔵の里山の恵みを活用する事業者による保全事業の誘致

豊かな水や森林等の里山がもたらす恵みを活用する事業を行う民間事業者が、国営武蔵丘陵森林公園の里山管理を行う。国営武蔵丘陵森林公園の里山が民間事業のサプライチェーンにあたるため、民間事業者にとって、持続可能な原材料等の確保となり、企業のサステナビリティ経営の一環として、TNFD等の開示やESG評価への対応を可能とすることで、ESG投資を呼び込むメリットがある。



事例) 国営アルプスあづみの公園 (事業者：サントリーホールディングス株式会社)

取組内容

1 水と生きるまちづくり (多様な主体との連携)

- ① 長野県及び大町市との包括連携協定締結
- ② 長野県「しあわせ水WJ」、大町市SDGs未来都市活動推進
- ③ 地元行政・企業とのイベント協賛、しごとづくり意見交換

2 水と生きるひとづくり (次世代への環境教育)

- ① 次世代職業教育「水育(みずいく)」
- ② 地元小学校や国語読書リテラシーの生涯教育の展開

3 水と生きることづくり (地域と共創を促すフィールド)

- ① 水の価値に共鳴してもらう体験、出会い、働く場をつくる

4 水と生きるものづくり (循環系・木材資源確保)

- ① 脱炭素社会 (①) 山出社口製紙に向けた工体系・高効率利用、太陽光利用、電気材によるバイオマス利用向上
- ② 適材適所に炭化した木材を建材や家具に活用

5 水と生きるもりづくり (生物多様性確保)

- ① フィールドの景観賞賛の調査・保全 (はな、みどり、動物)
- ② タカと共に暮らす工場 (鳥類生海手船によるオオタカの富



4. 民間投資・官民連携による里山管理 | (3) 候補エリア (案)

(3) 候補エリア (案)

- パターン① (里山環境の魅力向上のためのP-PFI等民間事業)**において、民間事業者が設置する収益施設の候補エリアとしては、以下に示す箇所が想定される。
 なお、記載のエリアについては、想定であり事業エリアについては任意に設定して頂くことが可能。

南地区 (里山のエリア)	中央地区 (緑と遊びのエリア)	北地区 (樹林のエリア)
【ゾーンの考え方】 武蔵野の里山を残すゾーン 主として動的レクリエーションを考慮 【整備・運営コンセプト】 <草花の鑑賞と里山管理、健康づくり> 梅、サクラ、野草等の里山の草花を鑑賞する空間 間伐等に里山環境を管理する空間 自然を楽しみながらスポーツなど健康づくりをする空間 【主要施設】 花木園、野草コース、南口広場・運動広場、 クロスカントリーコース等	【ゾーンの考え方】 都市の緑や自然・里山の学びのゾーン 記念施設を中心として、その他の緑や遊びに関する施設を配置 【整備・運営コンセプト】 <緑の学習、子供の遊び> 緑について深く学ぶことができる空間 遊具やイベントで賑わう空間 【主要施設】 都市緑化植物園、中央広場、溪流広場、わんぱく広場、水遊び場、 西口広場	【ゾーンの考え方】 里山の自然遷移に沿った管理ゾーン 主として静的レクリエーションを考慮 【整備・運営コンセプト】 <草花の鑑賞と里山・自然探勝> 草花を鑑賞する空間 南地区の里山環境と対照的な自然遷移により管理 する空間 【主要施設】 ドッグラン、北展望所、自然探勝路等



赤の網掛けは都市緑化植物園内